



PTAの活動紹介 第4回

幼稚園や地域と連携し、みんなで育てる子供たち

～台東区立大正幼稚園PTA～

台東区立大正幼稚園は、昨年度に創立100周年を迎えた大正小学校に併設されている伝統ある幼稚園です。幼稚園は66周年となります。訪問した日は、園児が小学生と一緒に、自分たちで作った滑り台や「もぐらたたき」等の遊具で遊んでいました。今回は、PTA活動を初めて経験する保護者に寄り添いながら、保護者同士をつなぎ、幼稚園と地域をつなぐPTA活動を紹介します。

園の行事で地域とつながる

大正幼稚園PTAには、行事部、レクリエーション部、家庭教育学部、広報部、環境リサイクル部の五つの専門部があります。行事によって行事部はA・Bの二つに分かれています。地域や町内会等との昔からのつながりが強く、引っ越してきた保護者が地域と連携した幼稚園の行事に参加することで、地域の方と知り合う機会になっています。

PTA会長・副会長が、町会や民生委員、保健所、児童館等が参加する地域座談会に出席していることから、保健所が主催するイベントで、園児の歌やダンスを披露することになりました。保護者や祖父母等も参加し、出張健康診断や、ファッションショー等にも参加したことで、イベントがとても盛り上がりました。

また、地域の小野照崎神社の祭礼に家族で参加した園児が、自分たちで段ボールや折り紙等で作った神輿を担いで地域を歩く「神輿回り」という幼稚園の行事があります。当日の安全確保のために参加した保護者が、神輿を担ぐ園児に応援の声を掛けたり、自転車整理をしたりする地域の方々の姿を見ることで、地域に支えられていることを実感する機会にもなっています。



神輿回り

学びの場も大切に

交流や体験の行事が多い中でも、大正幼稚園PTAでは、学びの場も大切にしています。家庭教育学級を年度初めの5、6月に3回開催していますが、卒園した保護者が託児を担当することから、保護者の9割以上の参加があります。園長や元園長、小学校の校長が講師となり、「子供の発達について」「生きる力を育てるとは」等のテーマの話と、グループでの話し合いを行います。年度の最初に学習会を実施することは、他の年代の保護者とも知り合い、子育ての不安や悩みを解消する機会となるという大きな意味があります。



グループでの話し合い

幼稚園が保護者に行っている学校評価調査では、子育ての悩みについて、園児の学年が上がるごとに「相談相手が多かった」という回答が増えているそうです。

活動コンセプトは「みんなのお父さん」



大園男ファミリーデー

PTA活動は母親の参加が多くなりがちですが、園児の父親全員を対象とした「大園男」があります。「大正幼稚園 父親(男)の会」です。「大園男」の男長が、PTA役員となり、PTA行事や園の行事の情報を「大園男」のWEBで発信しています。バザーや運動会等では、当日準備と園児と一緒に参加が基本となっているため、事前準備の参加が難しい父親も活動できます。夏に行う「大園男ファミリーデー」では、朝、登園する子供を教室に見送ってから、準備が始まります。水鉄砲やヨーヨーすくい等のコーナー担当を分担し、必要な遊具等を作り、完成したコーナーで子供たちを遊ばせます。

小学生や他の保護者、地域の方々等、多くの世代と触れ合う中で育っていく子供たちの成長を見ながら、保護者の教育に対する意識が高まるとともに、他の保護者や地域住民と顔が分かる関係となります。保護者からは「PTA活動は面倒くさいと思ったけれど、やってみたら楽しかった。学年を超えた仲間が多かった。」という感想がありました。PTA活動の入り口として、卒園後の地域活動や小中学校のPTA活動にも繋がっています。

東京都レベルの組織として、「東京都公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会」(以下「都幼P」という。)があります。都幼Pが主催する「子育て研修会」は、午前中は親子遊び、午後は子育てのヒントを学べる講演会を行い、毎年1,000人を超える参加者があります。詳しくはホームページ <http://www.tokyo-pta.net/index.html> を御覧ください。